

授業概要

歴史学がどのような学問なのか、3部に分けて考える。第1部（第1～6回）では歴史理論にもとづき、大学の「歴史学」では何を学び、それにどのような意味があるのかを扱う。第2部（第7～12回）では西洋史の理解に大きな影響を与えた歴史家たちの業績の一部を実際に読みつつ、歴史理解の変遷とそこから明らかになった歴史像を検証する。第3部（第13～15回）は歴史修正主義に着目し、歴史学との違いを明確に理解することと、特徴的な言説の検証を通じたメディアリテラシーの涵養を目指し、講義する。

授業計画

第1回	ガイダンス：講義の進め方について
第2回	歴史とは何か：過去の捉え方、書き方
第3回	小田中直樹『歴史学ってなんだ？』第1章を読み、歴史学と歴史認識について学ぶ
第4回	小田中直樹『歴史学ってなんだ？』第2章を読み、歴史学の社会的意義について考える
第5回	史学史の変遷と補助学問
第6回	日本の「西洋史学」
第7回	テーマで学ぶ①数量史
第8回	テーマで学ぶ②心性史
第9回	テーマで学ぶ③社会史
第10回	テーマで学ぶ④ジェンダー史
第11回	テーマで学ぶ⑤ポストコロニアルの歴史
第12回	テーマで学ぶ⑥グローバル・ヒストリー
第13回	戦後歴史学とナショナリズム
第14回	リップシュタット対アーヴィング裁判
第15回	歴史修正主義とは何か
第16回	筆記試験

到達目標

- 歴史を理解する上で大きな影響を与えた歴史家たちの作品を読み、ものの見方、史料の扱い方、時代背景と歴史学の関係性を理解できる。
- 文学、哲学、思想の基礎的な知識をもとに国際的視野に立って人間と文化・歴史の関わりを理解できる。

履修上の注意

- 指定したテキストや資料は授業開始前に必ず読んでくること。
- 出席率が70%に満たない場合、課題の未提出などは単位取得を認めない。

予習・復習

毎回の授業で予習資料や授業内容に関する短いレポートの提出を求めするので、毎回内容を予復習しておくこと。次週以降の授業でフィードバックを行い、受講生間の意見交換と理解促進を図る。

評価方法

筆記試験 50%、授業内課題 30%、受講態度 20%

テキスト

必要な資料は授業時に配布する。